

## 1. 気象概況（中野市長丘地区気象ロボット観測データによる）

月間	旬別	上旬		中旬		下旬		月間		特記・コメント
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
12月	平均気温（℃）	<b>2.9</b>	3.1	<b>1.7</b>	0.7	<b>-0.4</b>	-0.4	<b>1.4</b>	1.1	月間平年比+0.3℃（並）
12月	降水量（mm）	<b>0.5</b>	18.3	<b>11.0</b>	35.8	<b>38.5</b>	39.6	<b>50.0</b>	93.7	月間平年比53%（少）
12月	日照量（h）	<b>54.2</b>	47.5	<b>35.6</b>	38.8	<b>50.3</b>	43.7	<b>140.1</b>	130.0	月間平年比108%（やや多）

## 2022 12月気象ポイント

- ◆ 気温：最高気温12.7℃（12/6） 最低気温-8.8℃（12/28）
- ◆ 降水量：上旬平年比3%（極少） 中旬平年比31%（極少） 下旬平年比97%（並）
- ◆ 日照量：上旬平年比114%（やや多） 中旬平年比92%（やや少） 下旬平年比115%（やや多）

## 2. 生産の経過・病虫害発生状況・今後の対策

- ① 出荷量（昨対）：プラム125%、もも130%、和梨（南水）262%、サクランボ96%、りんご130%。  
秋映中心に胴サビ多い傾向。園地により、スイート、ゴールド、ふじにも散見。
- ② 果実肥大（縦径）：ふじ 前年比113%、平年比94%。玉流れ 36>32>40>28。ツル割れ少ない傾向。
- ③ サンふじ：着色・地色の抜け・ミツ入り悪い傾向。褐斑病による落葉および、着色期～成熟期の夜温が高かった影響と思われる。
- ④ 生産基盤（推定）：ぶどう346ha（昨対+3）・りんご144ha・もも86ha・プラム35ha・和梨12ha・桜桃7ha・柿6ha・西洋梨5ha
- ⑤ 雪害：長丘地区山手、柳沢、田上、岩井地区のりんご・もも等で枝折れ散見。ぶどう棚倒壊・損傷等約50件あり。
- ⑥ 獣害：日野、長丘、科野、倭地区中心に、猪・鹿による果樹園地への被害が多発。（猪：園内、土手を荒らされる。鹿：りんご等の主幹表皮・芽を食害）
- ⑦ 凍害：冬季の低温により、モモなどで樹体枯死、枝単位の枯れ込みが散見される。また、落花後の樹勢衰弱も散見された。
- ⑧ 収穫開始：りんご：秋映9/27、スイート10/7、ゴールド10/15、百年ふじ11/1～、サンふじ11/10～  
着色・成熟が遅れており、昨年よりも3～7日程度遅れて収穫が始まった。
- ⑨ ぶどう2022総括
  - ◆ シャイン：約5年ぶりに裂果多発。着果過多房内の小粒・弱樹勢・ジベ2回目遅れに多い傾向。高温・高湿度もあり過去にない果肉先行。カスリ症も平年より多く、早期に発生目立った。生産量は自然増もあり、昨年を上回った。
  - ◆ シャイン糖度：9月点検では若木樹先端や陽当たり良い部分中心に基準到達早い傾向だった。
  - ◆ 巨峰：着色不良・粒肥大不良・小房により減収。糖度上昇鈍かった。晩腐病は平年より少。
  - ◆ パープル：裂果多発・粒肥大不良等で減収。8月高温・高湿度もあり収穫期は平年より早かった。
  - ◆ ルージュ：裂果多発。着色は遅れ目立った。10月以降、果頂部軟化や晩腐病発生等でロスあり。
- ⑩ 病虫害
  - ◆ 黒とう病：房被害は昨年より大幅に少ない～ない。8月に副梢葉に感染確認。
  - ◆ 晩腐病：被害は平年より大幅少なく経過。
  - ◆ 黒星病：6月中旬、一部園地で葉・果実病斑が散見された。8月下旬頃から、一部園地で秋季の葉病斑が散見される。
  - ◆ 褐斑病：8月下旬から、りんご園にて葉病斑が散見された。（基っ葉中心）
  - ◆ せん孔病：5月上旬頃～春型枝病斑を確認。6月上旬頃～葉病斑を確認。晩生種以降、果実病斑が確認されているが、少発生。
  - ◆ スモモヒメシクイ：6/29 第一世代増加。7/下旬～8/初旬 第二世代増加。りんご、プラムで園地により被害発生。
  - ◆ カメムシ類：5月中旬頃から、カメムシによる果実・葉への被害が散見される。
  - ◆ ケムシ類（マイマイガ）：5月中旬頃から、山際の園地中心にマイマイガの発生が散見される。
  - ◆ ハダニ類：6月下旬から連日高温が続き、ハダニ類が散見されている。8月上旬、県ハダニ注意報発令。
  - ◆ コガネムシ類：6月下旬から山間部を中心に被害確認。
  - ◆ キンモンホソガ：8月中旬頃からりんご園でキンモンホソガの発生が散見された。